７月～８月の人権に関する週間○鹿児島県男女共同参画週間（７月25日～３１日)○「青少年の非行・被害防止全国強調月間」　○夏の「郷土に学び・育む青少年運動」（令和４年７月１日～８月３１日）

十島村教育委員会だより　令和４年７月号

しわやかトカラ情報

写真：口之島小・中学校海上安全教室

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号

【各島の実態を直接視て！学校や現場の実情から】

十島村教育長　木戸　浩

非常に早い梅雨明けに驚かれた方も多かったのではないでしょうか？幸いなことに、今年は大雨による大きな災害もなく夏を迎えられたことは嬉しいですが、猛暑による熱中症が心配です。コロナによるマスク生活が長く続いているため、マスクを外すことへのためらいもあるようです。子どもたちには、教職員がその場の状況に応じて適切に指導を行っているところです。

村政座談会で、各島を回らせていただき、課題となっている所を視察させていただいたところです。土砂崩れや、交通の支障になっている所等、住民生活の安全に関わる状況が非常によく分かりました。また、学校施設や社会教育施設、文化財に関わる施設等も見て回りました。児童・生徒、そして教職員の安全に関係するところは予算との関係もありますので、協議・検討し、できるだけ早急に対応していきたいと思います。

「今月の１枚の写真」

十島村教育委員会では、社会教育を少しでも身近に感じていただけるようにと、今年度初めて「生涯学習県民大学講座」を６月２日サテライト講座としてテレビ会議システムを使って開催いたしました。講座は、午前と午後の２講座を実施いたしました。十島村対象の講座は、今年度は、終了いたしましたが、今後も県民大学中央センターとも連携を図りながら、来年度以降２回目の講座が開催できるように申込みを続けていきたいと計画しています。これからも、社会教育についての情報をお届けしたいと考えています。

【中之島での講座風景】

「○○さんは、□□が上手なんだね！」の一言が

さて、大人でもそうですが、子どもたちも褒められると、とても嬉しいものです。褒められることで、自己肯定感や自己有用感が高まり、自信をもって日常生活を送ることができるようになります。

どの子どもも、一日の中で「キラリ」と光る瞬間があります。集団の中の小さな声に気付く耳。小さな変化に気付く目。その時に、先生（大人）がどんな言葉を、どんな表情で添えてあげるか。それによっても、子どもの受け止め方や思いは変化するのです。心の芯に、意欲の火が灯ることがあるのです。そしてそれが、次への一歩につながることは往々にしてあるような気がします。北村勝朗教授（東北大学大学院）は、「知識は、どこかにあるのではなく、人と物（事象）、人と人の相互の関係（関り合い）の中で作り出させる」と指摘しています。大人と大人の関係もそうですが、先生や大人と子どもの相互関係は、まずは「言葉のやり取り」に拠るのです。

「児童生徒の学びのために」
【視訪之瀬島小・中学校研究公開】

歌手の小椋佳さんにしても彫刻家の澄川喜一さん（スカイツリーのデザイン監修）にしても、その道に進むきっかけとなったのは、小学校時代の先生の一言だったそうです。二人は、幼い頃、歌や絵のことで褒められたことはなく、むしろコンプレックスがあったそうです。そんな彼らに共通するのは、ある学年に進んだとき、先生から「○○君。あなた□□が上手だね！」と言われたことでした。以後、それぞれの先生は、何かに付けその事を気にかけてくださったそうです。「自分より才能がある人はたくさんいます。それでもくじけずに続けてこられたのは、先生に褒められて創作が大好きになったからです」と、89歳の澄川さんは、「貴婦人の立ち姿」をイメージしたスカイツリーを見上げては、小学１年生の時の、いつも背筋をピンと伸ばして立っていた先生のことを思い出されるそうです。

【新聞掲載作品】

【特集　対馬丸でつながる思い】

対馬丸は、戦争中に魚雷で沈没した民間人や児童を乗せた疎開船です。犠牲者は、分かっているだけで１４８４人。沈没近くの悪石島では、１９６２年に「対馬丸慰霊碑」を建立し、児童生徒は、「あおぞら活動」として現在も清掃活動を続けています。

令和４年４月２５日 南日本新聞「若い目」掲載

「対馬丸とぎせい者わすれないで」
悪石島小学校五年　小池　幸希

十島村の悪石島には対馬丸の慰霊碑があります。月一回小学生のぼくたち７人と、中学校の生徒６人で行う「あおぞら活動」で慰霊碑をそうじすることになっています。ぼくは４月に佐賀から山海留学生でやってきたので、慰霊碑を初めて見たときは「これは何だろう」と思いました。だけど対馬丸について学習して考えが変わりました。

対馬丸は太平洋戦争中、沖縄から長崎に向かう途中、悪石島で、げきちんされたそかい船です。小さい子どもや老人がたくさん乗っていて、ぎせいになりました。ぼくは今と、戦争中だった対馬丸のころの人々の命と夢と希望を奪ったか、気づきました。

慰霊碑には対馬丸と、亡くなった人々の思いがこめられています。ぼくは、対馬丸とぎせいになった方々がだれにもわすれられないで、安らかにねむれるよう願いをこめてそうじをしたいです。

戦争がこの世からなくなり、だれもが安心して平和にくらせるようになってほしいと、心から感じました。

令和四年五月七日掲載
「対馬丸を忘れないで」読み安心
鹿児島市在住　林　弘

四月二十五日付けの若い目特集で、「対馬丸とぎせい者をわすれないで」と題し、悪石島小学校５年生の作文が掲載された。私は四十数年前に同校に教員として赴任していた。当時も小中学校の児童生徒が慰霊碑を掃除していたのを思い出した。

太平洋戦争末期、沖縄から学童疎開の子どもたちを乗せた対馬丸が悪石島沖で米潜水艦の魚雷攻撃を受けて沈没、児童や一般人など千人以上が犠牲となった。いつかは分からないが、慰霊碑は沈没した方角が見える場所に立てられたようだ。

赴任していた頃は洋上慰霊祭が行われ、映画化もされた。近年は多くの遺体が流れ着いたという奄美大島宇検村の海岸近くに新しい慰霊碑が建てられたようで、悪石島は忘れられるのでは心配していた。今も島の子どもたちが掃除していると聞いて安心した。

作文を書いた小池幸希さんはウクライナに思いをはせ、過ちを犯す人間の悲しさを感じているようだった。悪石島を選んで山海留学してくれた勇気もすばらしい。

島は自然そのもの。古い慣習なども研究してみてほしい。

令和四年五月十八日掲載
平和への願い若い世代が継承
鹿児島市在住　山鹿　博子

四月二十五日付本紙の若い目特集で、悪石島小五年の小池幸希さんの「対馬丸とぎせい者をわすれないで」を読みました。私と同じ思いであることを知り、うれしくなりました。

母は一九四四年、六年生の時に対馬丸と同じ船団の船の中で沖縄から疎開しました。隣を走っていた対馬丸が米潜水艦の魚雷攻撃を受け、漂流している子どもたちを目の当たりにしました。「助けて」と叫ぶ声が今も忘れられないといいます。

私は六月二十三日の沖縄慰霊碑の日が近づくと、母の体験を新聞に投稿したり子どもたちに話したりしてきました。沖縄から鹿児島に嫁いで来て、こちらの友人たちが対馬丸を知らないことにショックを受けたからです。私が母から聞いたことを伝えていかなければと思ったのです。

小池さんの作文からも、強い平和の思いが感じられました。

戦争を体験した人が減少していく中、若い世代が学んだことを語り伝えていくように願っています。

【平成２８年悪石島対馬丸慰霊祭】

十　島　村　で　学　ぶ

宝　島　中　学　校　１年　松下　朔也

「宝　島　の　生　活」

私は、４年生の２学期に鹿児島から宝島に来ました。前は、学校を休むことが多くトラブルもありました。宝島では、人数も少ないのでいろんな係や仕事をし、先生との距離が近く、まちがいや分からないところもすぐ、教えてもらうことができました。なのでほとんど休むことがなく、充実した学校生活ができています。

休日は、祖母の手伝いをします。食事の手伝いはできるだけするようにしています。はしや皿を並べたり、氷を作ってお茶の準備をしたりします。

中学生になると、バドミントン部や新聞部の活動が増えてきて、学習では国語の漢字や英語が覚えられなくて、大変ですが頑張ります。

宝島での生活も３年になります。これからも、楽しく宝島での生活を送りたいです。

【小宝島小・中学校からのメッセージ】

教　諭　東　悦子

小宝島に赴任して３年目となりました。これまでの私は、子育てと仕事の両立が常々の課題だったのですが、ここ小宝島では、小学５年生になる息子を文字通り常に身近に感じながら仕事と生活をすることで、この問題が一気に解決しました。島ならではの生活圏の狭さも、むしろ便利で、学校・出張所・郵便局が自宅より徒歩３０秒圏内にあるという素晴らしさです。生活時間にゆとりがあることで、気持ちにもゆとりがもてるようになりました。

また、島ならではの教育活動や体験ができることがとてもありがたいです。一輪車大会や持久走大会では、地域のみなさんが仕事の合間に沿道で子どもたちを応援してくださいます。運動会や文化祭も地域の方々といっしょに楽しみます。島豆腐づくりや郷土菓子づくりでは、地域の方を講師に招き、「昔はこうだったよ。」という話を興味深く聞きながら楽しく美味しく活動することができました。先日は、トビウオ漁を体験させていただきました。ライトに照らされた夜の海にたくさんのトビウオが群れて泳ぐ姿は圧巻で、夢中になって網ですくいました。今年は、地域の方といっしょにビロウの葉で草履作りにチャレンジする予定です。島の豊かな自然と受け継がれてきた知恵、そして子どもたちのためならとあたたかく協力してくれる地域の方々の想いに感謝して、私も微力ながら子どもたちのために力を尽くしたいと思っています。

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

２年ぶり開催の村教研で、たくさん語り合いましょう。